

5月27日に行われた久慈翔北高校での出前授業において、朗読された9編の小論文を聞いて心に引っかけた1編について「A：あなたが共感したのは？」「B：これからできることは？」、および「感想」について簡単に書き出してもらいました。

これらを元に、ワークショップでさらに考えを深めてもらい、「A」と「B」については授業後の課題として文章にして提出してもらいました。

ここでは、代表的な「感想」について記載しました。

(※ 「文章」の前の01)～09)の数字は、今回朗読してもらった9編の小論文の番号と一致します。ただし、選んだ小論文以外についての「感想」である場合もあります。)

01)「東日本大震災を体験した高校生の思いを受け継ぎ、学んだことを忘れず伝えていきたいです。」

01)「小論文を読んで、震災のことをこれからも若い人達に語り継いでいくことが大切だと思いました。」

02)「『明日やろう』と思っていたことができなくなると書かれていて、震災は本当にいつ来るか分からないと思った。未だに戻ってこないものが沢山あるのは、とても悲しいことだし、怖さを感じた。」

02)「自然災害は、いつ、どこで起こるか分からないものなので、『自分の命は自分で守る』ということ意識して日頃から対策していきたい。また、自分がこれからできることも継続させていきたい。」

02)「震災で立ち止まるのではなく、前進することが大事なのではないかと、読んで思いました。」

02)「小論文を読み、当時の様子や気持ちを知ることができた。後世に語り継ぎたい。」

02)「実際に震災当時のことを覚えている人の小論文を読み、当時の様子を知ることができた。」

- 03) 「東日本大震災の怖さを後世に伝えていくために、自分から津波のことについて学び、津波のことをよく知らない子たちに分かるように絵や歌を広めて知ってほしいと思いました。」
- 03) 「過去の震災を忘れないように自分ができることを考え直すことが出来た。」
- 04) 「小論文を読んで、自分たちにできることは語り継ぐことだと思っていたけど、今を一生懸命に生きるということが1番だと考えさせられました。毎日当たり前を送っている日常を大切にしたいです。」
- 04) 「経験したことを忘れないように伝えていくことは、とても大切なことだと思いました。」
- 04) 「日頃から防災意識を高め、震災について後世に伝えていきたいと思いました。」
- 05) 「東日本大震災を体験したことや、伝承、防災についての小論文を読んで、改めて震災のことについて考えることができました。」
- 05) 「01 から 09、どれも共感することが多かった。」 「『防災』『震災時を振り返る、伝える』『今後』『できること』など、いつまでも後世に伝えて、私達やもっと若い世代が考えていく必要があると感じた。」
- 05) 「自分もあまり津波の記憶はないけど、親からもっと津波について聞こうと思いました。」
- 06) 「実際に大きな被害に遭った人の話をもっと聞きたいと思った。」
- 07) 「以前、物を送っても使える物と使えない物があって分別が大変だという記事を見て、意外だったと感じたけど、こういう温かい話を聞いて、被災地に『送る』ことにも意味があるんだなと改めて感じた。」
- 07) 「さまざまな防災・減災の仕方があることを改めて知った。」

- 08) 「実際に体験した私達よりも先輩の話は、記憶に残っていることが私達より多く、辛い体験を元に書いたこういった小論文を読める機会はとても大事な機会だな、と思いました。」
- 08) 「私はあまり覚えていないけど、実際に体験した人の話を聞いていると、絶対に忘れてはいけないことだと思いました。」
- 09) 「東日本大震災が起こった時、私はまだ幼く、覚えていることは少ないですが、これまで学んできたことや今日学んだことを生かして、これから生活していきたいです。」
- 09) 「9編全ての小論文を読んでみて、大切なのは伝えていくことだと思った。」 「自然環境の活用が今の時代にも合っているし、木とかも無駄にならずにすむので良いと思いました。」